

NPO法人 青少年自立援助センター

セイショウネンジリツエンジョセンター

代表者名●工藤 定次[クドウ サダツグ] センター長●滝川 修三[タキガワ シュウゾウ]

所在地●〒197-0012 東京都福生市加美平1-12-5

電話番号●042-553-2575 FAX番号●042-551-6759

URL●<http://home.interlink.or.jp/~ysc> E-mail●ysc@interlink.or.jp

25年以上の経験をふまえて 青少年とがっぷり四つに組む

●報告—小川 誠[寄宿生活塾 五色塾代表]

YSCの前身「タメ塾」は既に25年以上も前から、不登校やひきこもりなど社会的自立ができない子供たちを支援する共同生活塾として独自の活動を続けてきた。その大きな特徴の一つが家庭訪問だ。単なる家庭訪問ではない。まず部屋に閉じこもって会ってもらえない子供に会いに行く。ドア越しの話し掛けから始まり、根気よく訪問を続

ける。タイミングが来たと思ったらちょっと心の後押しをして、さっと塾まで連れてくる。この辺の緩急、硬軟織り交ぜた子供の扱い方のノウハウについては今回の報告書でほとんど触れていないが、YSCの専売特許と言ってもいいのではないだろうか。寮に連れてきたひきこもりの子供に個室を与えたらまた出てこなくなってしまうのではないかと素朴な疑問があった。しかしそれは取り越し苦労だということが分かった。そうならないようにいくつかの仕掛けができています。確かに一人ひとり何をするかは



築30年の寮「第一遊遊館」はYSCの前身タメ塾の歴史を感じさせる。一階には広い廊下の両側に寮生の個室・食堂・スタッフ部屋・相談室・トイレや風呂などがある。13室ある寮生の各個室は7畳半。



カーペット敷の大きな食堂は寮生とスタッフが気軽に触れ合える「人馴れ」の場として重要な役割を果たす。



食事はセルフサービスで。食後は各自が食器を洗い指定の場所へ。専属スタッフが約60名分の食事を備える。

本人に任されている。親がやるような介入や脅しは一切しない。その意味でひきこもるのも自由だ。しかし、例えば食事。自己主張のためストライキを起こして食べない子もいる。そんなときは放っておく。でも人間腹が減ったらやはり何か食べなくなる、飲みたくなる。結局、食堂で食事をしながらスタッフと会話を交わすことになる。トイレが一箇所しかないのも同じ仕掛けだ。でもそれ以上に優れた仕掛けは、様々なタイプのスタッフが自然体で寮生の側にいることだ。たいてい一人ぐらいい気合いそうなスタッフ、話しかけてもよさそうなスタッフが見つかる。お互いになんとなく感じ合える相手が自然に接点を増やしていく。そこが「人馴れ」の突破口になる。その辺は絶妙だと感じた。ただしどんな子供でも必ず相性のいい相手がいるとは限らない。それで去っていく子の中にはいるようだが、致し方ないことではないだろうか。人間相

手に機械のように100%を要求することは土台無理な話なのだから。

それからもう一つ。YSCの寮生は10代後半から30代前半だ。YSCは傷ついた彼らの心を癒すことだけを目的とするのではなく、むしろそれ以上に重要な社会参加の可能性を真剣に追求しているのは特筆すべきだ。そこから「なんとか自分で自分の飯ぐらいは食えるようにする」という具体的な経済的自立を最終目標とする考え方が出てくる。そこへ向けて様々な活動や実習の場を設け、社会との接点を様々な形で作り上げてきた。これは素晴らしい。これには頭が下がる。しかし、コストもかかる。何も知らない素人の第一印象では入寮費が高いなと感じたが、活動の規模や実態を見て「これだけの内容と規模を維持、運営するには当然相当の経費がかかるだろうな。これでは安易に高いとは言えないな」という印象を持った。もう少し言えば、このような青少年の



新しく設置された会議室はゆったりスペース。スタッフのミーティングや父母会がここで開かれている。



第一工場では、ペットボトル、ダンボール、古着、新聞や古雑誌などのリサイクル可能な資源回収・整理を行う。



施設の一角を生かし新しくリサイクルショップの経営を始めた。店長はその道のプロ。



寮生が自立するための様々な用途に使われている武蔵野台研修施設。



整頓された古着棚。バザーなどでリサイクル可能な古着を出展する。女子寮生が楽しそうに裁縫・整理していた。



入学試験が終わったばかりで学習室はほとんど生徒がいなかった。壁には各人の学習スケジュール表。

社会復帰事業とも言うべき社会福祉の意味合いの濃い事業は公的な性格が濃い。しかし、YSCのように一人ひとりに照準を定めて、きめ細かに小回りを利かせて24時間体制で青少年とがっぷり四つに組み合わせようなことは到底公的機関では不可能としか

思えない。ならばせめて行政側はYSCの公的役割を認識して活動場所を提供するなどの設備・施設上の援助や資金的な援助を積極的にするべきではないだろうか。そうすればもっと多くの子供たちが救われるはずだ。[調査日-2002.02]

■代表者に訊く

滝川 修三 さん

●NPO法人 青少年自立援助センター センター長



●団体の特徴

この施設は基本的に社会参加が苦手な子供たちが社会参加できるようにすることを願って

設立しました。ですから対象は不登校やひきこもりの青少年だけではなく、知的障害や精神障害を持った、あるいはその傾向の

ある子供たちも受け入れています。ただ、今ひきこもりの子供が増えているのは事実です。

ひきこもりの場合、先方から来ることはまずないので、こちらから出向く家庭訪問の形式を取っています。通常月一回訪問します。次の訪問までの間に本人もあれこれ考える時間を取ることに意味があると思います。(ドア越しでの) 本人への語り掛けから始まるのですが、すぐにすんなりと話し合えるようになるとは限りません。その点で、スタッフも精神的にきつい部分があるので、



自立が間近に迫った寮生の宿泊施設「第二遊遊館」。ここに入ったということはそれだけで社会人に近づいたことを意味し、寮生としても自信と誇りを持つようになるそうだ。水道・光熱費は自分の稼ぎで払わなければならない。個室は全部で18室。



開設間もないが好評なのが一般の方へのパソコン教室。寮生で得意な子はアシスタントで関わる。



民間の漬物工場で漬物の第一段階加工を任せられる第二工場。朝9時から午後5、6時まで現場の社員として働く。

必ず二人でチームを組んで行きます。入寮が決まるとその子に合わせて個別の日課を考えます。一人ひとりが異なった日課を組めるところがYSCの大きな特徴の一つです。また、男子だけではなく女子も受け入れています。

寮生活ではまず「元気になる」と語り掛けます。それは子供が本来持っている元気を取り戻すためです。そのために、その子の生活環境や対応するスタッフ、作業プログラムなどを考えます。そして、日々の生活の目的を見つけられるようにアドバイスしたり、行事等に誘ったりします。しかし「○○をください」とスタッフの方から押し付けることはしません。本人がしたいと言いつつまで待ちます。

また、「話すだけでは元気になるよ」とも言います。「頭で考える前にやってみようよ」と。そして最終的には自分の体を使って自分で稼ぐ。そうして誰にも頼らないで

やっていけるようになる。そのようにして自立支援を行っています。

寮生はたいてい身の回りのことは自分でやれるので、あまり生活管理は問題にしません。それよりも共同生活で社会性を身に付けることを重視しています。それをここでは「人馴れ」と呼んでいます。「人間ってそんなに怖いもんじゃないよ」と実感して欲しいと思っています。

そして、ここではリサイクル作業や漬物工場での実習など幾つかの具体的な社会経験を実習生という立場で模擬的に経験できるようにになっています。これも自立へ向けての有効な手段となっていると思います。

●卒設の基準

自分で自分の飯が食えること、つまり経済的に自立することです。もう少し具体的に言えば、一人暮らしをして敷金などは自分でお金を貯め、長期間仕事が続けられるだけの精神力と体力、社会性を身に付けるこ



寮（武蔵野台研修施設2階）には、ホテルを思わせるような寮生の個室が全部で18部屋用意されている。



推定200坪強の農園は無農業でやっている。とれた野菜はほとんど自家用となる。



ゆったりとした食堂兼談話室。ここで生活をする寮生は第一遊館から配達される食事を食べることになっている。



多摩川の河川敷でサッカーを楽しむ寮生たち。この日は15名が夢中になってボールを追い回していた。

と。そのような実力が付いた子はたいてい自分から「ここを出ます」と言ってきます。

●年代別目標

[10・20・30代] 卒設の基準を満たすか、長期的に学校生活が送れること。

●施設における自立の定義

精神的自立というのは分かったようで分かりにくいものです。YSCでは具体的に先ほど述べたように経済的な自立を目指しています。

●在籍生の就職状況とその支援体制

寮生が個人的に就職活動を行っています。YSCとしてはコミュニティーアングルプロジェクト(YSCのサイトを参照して下さい)という新しいシステムを作り、寮生の就職活動支援体制の確立を急いでいます。

●在籍生のアルバイトの可否・その状況と支援体制

自分で探して決めることができるのなら可能です。スタッフの方から止めることはありません。

●作業(有償/無償)の有無・その内容と状況

農業実習と第一工場(リサイクル作業)が基礎ですが、それらは無償です。第二工場(漬物工場)、ハウスクリーニング、老人ホームのヘルパーの仕事は奨励金がでます。

●教科学習の必要性和サポート体制

希望者を対象に通信制高校の学習サポートを中心に行っています。本格的に大学や専門学校へ行きたい子には、予備校を勧めています。

●在籍生の心理的サポート体制

スタッフが日々の生活や作業、その他の活動の中で個人個人の様子に気を配り、必要が感じられたときに「これではまずいので」と働きかけをします。具体的に「○○をしよう」というアドバイスが効果的なときが多いようです。相談も受けますが圧倒的

に女子が多いです。話し合いが明日につながるように気を遣っています。

●外部医療機関との連携

精神内科などに通っている子もいます。医者が往診に来ることもあります。近隣には協力的な医者もいてしっかりと連携と取っています。

●在籍生の保護者へのサポート体制

入寮して最初の一週間は毎日保護者(親)に電話を入れます。それ以降は必要に応じて連絡を取ります。また月1回は書面で生活報告を出しています。2ヶ月に1回保護者会(父母会)を開いています。

◆スタッフに訊く…1

原井 龍太郎 さん

●28歳 男性 正規スタッフ 勤続年数1年半



●施設と関わるようになった理由

ハローワークを見て興味を持ちました。以前から人の相談に乗ったり、人と話したりするのが好きで、ひきこもりや不登校は他の子と比べて運が無かったからではないかと考えていました。そういう子供に自立の手助けができればと思ってスタッフに応募しました。

●施設について

以前にも個人的には似たようなことをやっていたので、特別にどうという意識はありません。

●在籍生の変化に気づくとき

みんなそれぞれ少しずつ変わっていくと思います。ある日突然ころっと変わることはありません。長い時間が経ち、振り返って見るとやっぱり変わったなあって分かることが多いです。

●在籍生との関わりで注意している点

みんな一人ひとり違います、心の抛り所と言いますか、どんなことがあってもここに来れば必ず受け入れてもらえると感じてもらえるように心がけています。

●ここで働いて喜びを感じる時

ここを出て行くときは「とりあえず」という感じです。それよりも、例えば入寮時には精神的に弱かった子が社会に出てアルバイトができるようになったと聞いたときなんか嬉しくなります。

●辛いと感じるとき

どんな仕事にもそういうことは付き物だと思います。ただ、寮生が将来のことで悩んでいて、この子だったらここまで行けるとわかるのにいろいろな条件からその一歩、二歩手前までしか後押ししてあげられなくて、最後の目的地まで辿り着けなかったときなんかは非常に残念ですね。

●施設での自分のポジション(役割)

うーん、何ていったらいいんでしょうか。一言で言うのはとても難しいですね。各作業場間の情報をまとめて、全体の調整なんかもやってはいるんですが、寮生の一人ひとりにも気を配っているし。ここの生活全体がうまく回るようにするのも仕事だし…。

●施設の今後について

言いたいことはいろいろとありますが、一つはこのような施設のことを一般社会に認知して欲しいと思っています。それからこの施設のように、「生きるのが苦手」な子供たちの受け皿がもっとたくさん増えて欲しいですね。そして、こういう問題に行政がもっと首を突っ込んで欲しいと思います。

●代表・その他のスタッフについて

ここにはいろんなタイプのスタッフがいるのがとてもいいと思います。そうでないと、スタッフがかかわる事のできる寮生も偏っ

てしまうと思います。誰でも相性とか好き嫌いとかありますから。いろんなタイプのスタッフがいたら寮生も必ず誰か話しやすい人がいると思うんですよね。

◆スタッフに訊く…2

三好 さん

●女性 正規スタッフ



●施設と関わるようになった理由

小児科医であった知人の紹介でこのことを知りました。

●施設について

こういう施設がなくて済むのなら無い方がいいんでしょうが、現実にはひきこもりや不登校など自立できない子供が増えている訳ですからとても必要な場所だと思います。これからも増えていこうと思います。

●在籍生の変化に気づくとき

いろんなタイプの子がいますからそのタイプによってピンと来たり来なかったりはするんですが、寮生が自分を受け入れてくれるようになったとき「この子は変わったな」って感じます。そういうときは心で何か決心できた時だったりして、それは行動にも出ます。言葉も感情のこもった言葉を話すようにもなります。

●在籍生との関わりで注意している点

相手が入ってくるまで待つことですね。相手のペースを乱してまで、自分が相手の中に踏み込まないように注意しています。もちろん疎遠な子にも声をかけたり挨拶をしたりはするんですが、子供の心が開くまで待つようにしています。私には私の人付き合い上手な距離感というのがあり、寮生には寮生の距離感があるわけで、どちらも

それを尊重できるようにならなければ良好な人間関係は築けません。特に女の子は距離の取り方が苦手で、入って来過ぎることがあります。そういうときは逆に少し距離を取るようにする事もあります。

●ここで働いて喜びを感じる時

寮生と友達になれたときですね。それは卒業した後の方が多いです。というのは、寮にいる限りはなんだかんだ言ってスタッフと寮生という立場上の違いがあるからです。それが社会に出て社会経験をすることで、私という存在を前とは違った存在として捉えるようになるんでしょうね。そして社会の中で友達の必要性を前よりずっと切実に感じるようになるんだと思うんです。それで私のことを友達として捉え直すんでしょうか。そういう時は本当に嬉しいですね。

●辛いと感じるとき

いろいろなスタッフがいるので普通は寮生が話しやすいタイプがいるんですが、そういうタイプがなくて、寮生がどのスタッフにも“ひっかかれない”ときは辛いですね。

●施設での自分のポジション(役割)

小間使いです(笑)。今は組織がだんだん大きくなってきていて若いスタッフも増えてきました。そういう人たちも精一杯やっていますが、どうしても隙間が出てしまいます。そこでそういう隙間を埋めるのが私の仕事だと思っています。

●施設の今後について

組織が大きくなるとどうしてもシステムが必要になってきます。そうすると、組織の持つ問題も出てきます。でも一方でスタッフが多いということは寮生にとってとても良いことだと思います。ですからそのメリットを活かせるような組織作りができればいいなと思っています。

●代表・その他のスタッフについて

理事長や副理事長は前の世代の人間でもパワーがあります。私達のようなその下の世代は、やっぱり休みは週二日欲しいとか、仕事は何時から何時までとか、前の世代ほどのパワーがありません。そうすると、今後はどんな組織になっていくのだろうか、公務員化していくのだろうかなんて考えたりもします。私たちの世代の良さを見つめてそれを引き出していかなければいけないと思います。

●その他

今の活動ができるのは地域との繋がりがあからずからです。現代人は人間関係が希薄になっていて、地域の繋がりが乏しいです。それがひきこもりや不登校などの原因の一つです。ですから、私はそれぞれの地域で人が繋がっているようなシステムができるといいなと思います。

◆スタッフに訊く…3

工藤 祐介 さん

●27歳 男性 正規スタッフ 勤続年数1年半



●施設と関わるようになった理由

以前はコンピューター関係の仕事をしていましたが嫌気がさしてしまい、人間を相手にする仕事がしたいと思っていたときにここの存在をハローワークで見つけてやってきました。

●施設について

最初はギャップが大きかったです。カルチャーショックでした。寮生への接し方一つとっても、戸惑ってしまい引いていました。性格に合わないのかなと悩んだりしましたが、今では自然体で行っています。友達感覚で寮生の遊び相手になっていま

す。

●在籍生の変化に気づくとき

かなり頻繁に見かけます。例えば、入寮当初は「僕は何もできない」と毎晩弱音を吐いてばかりいた子が、今では外でアルバイトをやっていたり。みんなそれぞれに成長していると感じます。

●在籍生との関わりで注意している点

人間ですから合う合わないっていうのはあるんですけど、自分の心構えとしては誰であろうと平等に接し、特別扱いはしないようにしています。今では彼らが特別な存在だとは思いません。ちょっと道を間違えれば、誰だって陥ってしまう危険があるようなことだと思えます。

●ここで働いて喜びを感じる時

訳が分からずここへやって来た子が自分のことを話すようになったときに働く喜びを感じます。遊びのときに笑顔を見せてくれたり、彼は成長しているなって感じたときなどが一番嬉しいですね。自分も少しは人の役に立っているんだなって感じられるからです。

●辛いと感じるとき

宿直がきついですね(笑)。1週間に5日出勤してそのうち2日は宿直をやっています。その夜、何も起こらなければぐっすり寝れて文句はないんですけど、なんだかんだと起こされるんですよ。それで次の日は結構きついですね。それからもう少し給料が良ければなあと思います(笑)。

●施設での自分のポジション(役割)

第一工場(リサイクル作業場)の責任者です。

●施設の今後について

今、YSCはめまぐるしく変化している最中だと思います。そしてすべては順調に行っていると思います。今のところ第一工場での作業には奨励金がつかないんですが、少

しでもついたらなあと思います。

●代表・その他のスタッフについて

僕は遊んでいます、他のスタッフはみんなまじめで、仕事熱心で頼りになります。みんな欠けてはほしくないと思います。スタッフ同士の関係も良いと思います。

●その他

ここに来る子を特別視しないで欲しいと思います。世間の認識はまだ浅くて寮生のことを病気だとか知恵遅れだと見なしがちですが、正しく見て欲しいと思います。

★在籍生に訊く…1

匿名 さん

●入寮する以前の状態と入寮のきっかけ

家に閉じこもっていて外に出るのは週に1回食料の買いだめをするときだけでした。でも、ずっとそんな生活を続けているうちに、「こんなことをやっていたら生活が危うい」と限界を感じました。それで親に調べてもらい、こういう場所があると知りやってきました。

●入寮当時の施設の印象

僕は普通の子と違って、すぐに自立(卒設)間近の人が泊まる第二遊遊館に入りました。そして、食事などは第一遊遊館に来て食べるようにしました。そんな関係でYSCを外からみているような感じがありました。何がなんだかよく分からなかったけどスタッフのアドバイスに従ってやってみるしかないなと思いました。

●現在施設で行っていること(作業・通学・勉強など)

一ヶ月前からコンビニでバイトを始めています。朝の6時から11時までです。暇じゃないからいいです。でもまだ体力が消耗するので午後は自由になっています。金曜のサツ

カーは大好きで毎回参加しています。

●施設で楽しいこと

何人が友達ができました。友達と話したりゲームをしたりサッカーをしたりしています。またスタッフがいつも相談に乗ってくれます。スタッフとは楽しく話し合えるのがいいです。

●施設で辛いこと

特に思い当たりません。

●入寮後自分の中で変化したこと

家にいるときは人間関係にブランクがあったので人付き合いが苦手でした。入寮当初は人間関係を作らずに過ごしてしまおうかと思いました。どうやって話しかけたらいいのか分からなくてとても気を遣いました。でもいろんなスタッフのおかげで今では友達と出かけられるようになりました。

●今の目標

コンビニのバイトを続けることです。お金が欲しいからというよりも、親に頼らずに一人で社会の中に入ってどこまでできるのか、そういった形あるものを見たいという気持ちです。

●将来について

まだ将来という言葉は現実味がありません。今はコンビニでのバイトを続けることが目標です。

●現在の施設の印象

ここに来た時と変わっていません。

●他の在籍生との関係

良い仲だと思います。

●親との関係

親は兵庫県にいますが、殆ど会っていません。以前は、親は自分のことを理解していないと思っていました。今では親の気に入らないことをいろいろやったなと悪い気持ちもあります。気が付いてみると、いつでも僕のことを心配してくれていたのだなと

思います。憎むとか怒むとかの感情もありません。

●代表・スタッフの方との関係

みんな辞めて欲しくないと思います。

★在籍生に訊く…2

水野 祥平 さん

●21歳 男性 在籍年数1年半

●入寮する以前の状態と入寮のきっかけ

高校を卒業してコンピューター関係の専門学校に入ったんですが、合わないと思って辞めて、自宅でゲームに半年ぐらいはまっていた。そしたら親に「学校に行かないなら働きなさい」と言われ、建築助手や警備員、ラーメン屋などに挑戦しましたが、すべて一日で諦めてしまいました。生活も昼夜逆転するなど乱れてしまい「このままじゃ死んじゃうよ」と言われました。そして今度はYSCを見つけてきてくれて、お婆ちゃんやおじいちゃんの勧めもあって、ずっと入寮ができました。

●入寮当時の施設の印象

YSCで面接をしてそのまま入寮しました。何も分からず不安でしたが、スタッフがついてくれました。スポーツに参加して仲間もできました。特に松下君が話しかけてくれて安心しました。

●現在施設で行っていること(作業・通学・勉強など)

去年の6月からホームヘルパーの勉強と実習を始め、10月に2級の資格を得ました。とても嬉しかったです。そして10月15日から週3回横田ホームという老人ホームでヘルパーをやっています。そこの職員は皆親切です。そこで自分がお年寄りと話をするのが好きであることに気づきました。

●施設で楽しいこと

スポーツ(サッカー)がとても楽しいです。仲間も増えました。たまにゲームをしたり遊びに行きます。

●施設で辛いこと

別にありません。

●入寮後自分の中で変化したこと

体力的にも精神的にも力がついてきたと思います。前は何をやっても中途半端で投げ出してしまいました。でもヘルパーという仕事で、一つのことがでるといふ自信が付きました。

●今の目標

今年中に仕事を覚えここを出て実家のある茅ヶ崎の老人ホームで働きたいです。親は慌てないでもっとYSCで実力をつけなさい、後一年くらいいなさいといいますが…。

●将来について

今の目標はすでに将来の目標です。

●現在の施設の印象

いろんな作業はためになります。まだハウ

スクリーニングだけは希望者が多くて未経験ですが、他は全部やりました。今は老人ホームに通いで来る人たちのボランティアもやっていますが、とても楽しいです。

●他の在籍生との関係

いい関係です。

●親との関係

盆暮れに帰る程度ですが、関係は前から悪くありません。

●代表・スタッフの方との関係

工藤さん(理事長:工藤定次)とはバーベキューで話したくらいで良く知りませんが、とても良い人です。あまりしゃべらない人ですが。スタッフはそれぞれ苦手な人、話し易い人などいますが、馬の合う人は私が不安なとき、良く話を聞いてくれます。大きな悩みがあるとき、いろいろなスタッフに意見を聞いています。それぞれが違った角度からアドバイスをしてくれますから。

▼団体詳細

団体名称●NPO法人 青少年自立援助センター(セイショウネンジリツエンジョセンター)

代表者名●工藤 定次(クドウ サダツグ) センター長●滝川 修三(タキガワ シュウゾウ)

所在地●〒197-0012 東京都福生市加美平1-12-5(フッサシカミダイラ)

電話番号●042-553-2575 FAX●042-551-6759

URL●<http://home.interlink.or.jp/~ysc> E-MAIL●ysc@interlink.or.jp

設立年度●1976年 在籍生平均在籍年数●2~3年

入寮生数●男…39人 女…7人(平均年齢…26歳) 入寮定員●男…50人 女…10人

通所生数●男…9人 女…1人(平均年齢…24歳) 通所定員●男…1人 女…1人

年齢制限●無し 性別制限●無し 相談業務●有り(10,000円)

家庭訪問●有り(20,000円+交通費実費/1回) 親の会●有り(150人) 会報発行●有り(年12回)

特記事項●一人一部屋制。/「タメ塾」を母体として1999年6月に法人格取得「NPO法人青少年自立援助センター」となる。

スタッフ状況●日中…平日と土曜日は最低10名。日曜日と休日は最低4名。夜間…各宿泊施設に一人ずつ宿直。

スタッフ●正規…男19人・女5人/ボランティア…男1人・女1人/その他…男1人・女1人

▼通所費・入寮費

通所生●入会費…中学生5,000円・高校生10,000円・18歳以上15,000円/月額負担金…週1回10,000円・週2回20,000円・週3回30,000円・週4回40,000円/その他施設費5,000円。

入寮生●入寮費…315,000円／設備費…210,000円／月額負担金…178,000円(内訳、生活指導63,000円・部屋代45,000円・食費47,250円・光熱費12,600円・消耗品10,710円)※傷害保険込み。

▼生活

日課スケジュール●YSCでは一人ひとりに応じて個別に活動プログラムを決めているため様々な選択肢がある。ただし、何もやらないという選択はせず何か一つだけはやるように在籍生に勧めている(オフィシャルHPの週間スケジュール参照)。

週末・休日●日曜日は原則として休みだが時々イベントを行っている。

食事●食事は専属スタッフが作っているが寮生も任意で手伝っている。朝食なら7時から9時50分までというように食事の時間に幅があり個人個人が都合の良い時間に食べている。スタッフも必ず誰かがその場において寮生と会話を交わすようにしている。

清掃●自分の使っている部屋は自分で清掃し、共同場所は毎日の日課としてスケジュールに組み込まれている。

年間スケジュール●1月…新年会・餅つき大会／2月…スキーツアー・健康診断／5月…キャンプ旅行／6月…海外旅行／8月…福生市七夕祭り出店・海水浴ツアー／10月…文化祭／11月…福生市産業祭に出店／12月…クリスマス会。